

# 令和元年度第3回 南丹市地域創生会議 会議録

■日 時：令和元年12月24日（火）午前9時30分～12時00分

■場 所：南丹市役所本庁1号庁舎3階防災会議室

■出席者

委 員：窪田委員、坂本委員、高御堂委員、谷口委員、野々口委員、藤野委員、藤村委員、俣野委員、南本委員 ※今井委員欠席

事務局：市長公室 船越公室長

市長公室企画財政課 國府課長、片山企画係長、富部企画係主査

■傍 聴：2名

## 1. 開会（事務局）

■欠席委員の報告および会議成立確認（設置条例による）

■座長挨拶

前回の長い会議の後、委員の皆様にはそれぞれご意見を出していただくなど、ご協力いただきましたことを私のほうからもお礼申し上げます。

お蔭様で案の方も随分完成に近付いてきた。とはいえ、中身を考えていく上で、今日は一定の内容を入れるチャンスかなと思う。積極的により良い案になるように期待したい。

この間、他のいくつかの自治体でも地方創生で関わっているが、第2期策定に向けた取り組み方や進め方には色んなパターンがあると感じる。そんな中で本市の会議は皆様に毎回出席いただいて熱心にご意見をいただいていることを嬉しく思う。

市だけで取り組む計画ではなく地域全体で民間も市もそれぞれ頑張っていくという方向性。私も中間案を見ながら大学・研究室としてできることを考えているところだが、皆様ご自身もどのように関わっていくか考えていただければ嬉しく思う。

では議事に入って参りたい。

## 2. 議事

### 議事その1：各種広聴結果報告について

<資料①、資料②、資料②-1、資料②-2、資料③>

（事務局から説明）

■資料①（令和元年度市民意識調査）について説明

- ・基本は南丹市総合振興計画の進捗管理のためのアンケート調査
- ・第2期戦略策定を視野に入れた設問も作成(設問 27)
- ・調査表の形式を工夫したが、回答率は微増程度で高齢者割合が高い

委員：

説明について何かご質問・ご意見があれば。

委員：

回収率 34.6%は普通か。

委員：

回答率には私も関心を持った。決して高くはないという印象であったが、コンサルでアルバイトしている学生に聞いてみたら「普通かマシな方」とのことで、低い場合は 25%程度になるようである。紙媒体のアンケートではその程度かなと思う。今回、工夫いただいて内容を軽くしたということだが、それでも紙が送られてきてこういうテーマだとなかなか伸びない。「普通」だからそれでいいかというとは私には思わないので、さらにライトな感じで答えられるように努力されたい。ネットを思い切って使うか何かしないとこれ以上は伸びないかなと思う。ただ、毎年の取り組みなのでもう少し工夫をしてみて回答率が上がらないか検討するのも良いように思う。

元々の質問への答えとしては、「この程度が一般的」ということになる。

委員：

郵送した上で、ネット回答も可という形式にすれば若い層の回答率が上がるのでは。ネットだけでしてしまうと、高齢者層が回答しない方が多くなるので併用できたら一番良い。

委員：

京都市の政策評価を今年の3月までしていたが、この1～2年間ネット併用形式にしてみたら、わずかに回答率が上がった。元々長い行政アンケートを普通にネットで答えられるようにしただけなので、効果は小さかった。

委員：

回答する内容は割と簡単なので、これだったらネットで手軽に実施できると思う。ネット併用する場合は、出来ることなら市のホームページから入るイメージ。ただ、勝手に回答されたら母数との関係があるからIDか何か必要かと思うが。

おそらくネットで誰でも有りにしてしまうと、特定カテゴリーに偏った意見が集まってしまうので、2,500人の数量を減らした形で併用出来たら一番良いのでは。

委員：

ありがとうございます。幾つか大事なご意見をいただいた。

今回の会議においては、色々な条件のある情報だという前提で参考にさせていただけたらと思う。

(事務局から説明)

■資料②(第 2 期南丹市人口ビジョン案および南丹市地域創生戦略中間案のパブリックコメント等)

について説明

- ・令和元年 11 月 20 日～12 月 19 日実施結果の速報
  - ・当初は問い合わせもなかったが、12 月6日に京都新聞に掲載(参考資料参照)された後から問い合わせが入るようになり、最終日前日と最終日に計4件の意見提出あり
  - ・同時期に庁内意見募集も実施し、2課から意見提出あり
- 資料③(中間案について各委員からいただいたご意見)
- ・前回会議資料の中間案(ver.1)についてメールでいただいたご意見を反映、今回資料の中間案(ver.2)としてパブコメを実施

委員：

パブコメのご意見についてご意見も求めづらいところであるが、進め方や資料について参考いただくうえでご不明な点があれば。

19 日に来たばかりのご意見に対してコメントはまだしていないだろうが、今後もしない予定か。

事務局：

今後、内容を整理し、今回の会議結果も踏まえて回答させていただく予定である。

委員：

各意見について全部回答するのは大変であろうと思う。ご意見はありがたい。参考にしますとしか言えないが。

7番のご意見にある「KGIとKPIと各事業が連動していない」事務局的には連動していると考えている、という解釈で良いか。

委員：

婚活問題、美山町では独身男性が凄く多い。40～50 歳ぐらいの人が。子どもの数が本当に少ない。美山中学校でも3年生は 10 人しかいない。昔は地域のおじさんやおばさんが居て、色々な話をし、仲人的役割を果たしていたが、今はそういうことがなかなか難しい。本当に結婚する人が少ない。

委員：

市の方でも婚活事業は取り組んでいるし、京都府もここ数年、婚活応援支援センターを設置して、まさに仲立ちをしてくれるような人を作りたいとは言っていて。つい最近、知事に来て話してもらったら、2年間で3万件の成約実績があったとか。どこの地域で3万人結婚されたのか気になるところ。

委員：

若い人が少なく高齢者ばかりである。

委員：

京都府のパブコメでも、京都府全体で把握しているところがある。パブコメにもご意見のあるとおり、南丹市でも園部・八木と美山・日吉では状況が違うので、本当は分解してやるべき。一方で南丹市として一体的に進めていくという意味では、分解したのを見せ過ぎるのも問題。よって、戦略をつくっていく時には南丹市単位でも、事業をするには地域を想定して実施しないとけないので、意識していただきたい。

婚姻者数でも分けて見たら園部・八木と美山では恐らく違うと思う。行政としてはそういった実データは可能な限り把握して施策は考えなければならない。とはいえ、最近は分けて把握しづらいという事情もある。

委員：

個人情報の問題がある。

委員：

それもある。先程の市民意識調査でも回答率 34.6%だったとのことだが、恐らくこれも地域差があると思う。地域によって回答された方の年齢に偏りがあると推測する。なかなか難しい。

委員：

パブコメは4人の方からなかなか充実したご意見をいただけていると思う。

3ページの項目 37 については私も似たようなことを発言したことがあるように思う。学校を充実させて南丹市から京大行けるレベルにしたら当然移住人口が増えるに違いない。

委員：

経験上、中学3年生が 10 人しかいないということは、逆にいえば濃密な教育が可能ということ。

学習意欲を高め、伸ばすチャンスがあると思うので、極端な話、10 人のうち何人が東大に行った、となる可能性があるのでは。

委員：

修学旅行に行っても家族旅行のような雰囲気。美山の学校協議会に所属しているので子ども達が多くすくすくと元気にやっているのは見ているが、本当に少ない。

委員：

修学旅行ではどんな所に行くのか。

委員：

東京だったと思う。

委員：

最近は広島や西日本も増えている。

12 月に京都の政策系の学部・大学院が集まって研究交流大会があるが、「中山間地域」とか「地方創生」という発表もあり、山を越えた京北町等では修学旅行で農村体験をやるべしと同志社大学の方が熱烈に発表していた。

委員：

美山町も修学旅行で来てもらいたい。

委員：

来てもらいたい。3日の宿泊のうち半分は京都市内に泊まってもらって、半分はこちらに泊まっても

らうような期待もあるようである。

委員：

修学旅行にはシーズンがある。私個人的には美山に何回も行ってた。子どもも何回も連れて行った。京都市内の学校に通っていてそんなに興味を持っていなかったのが、体験学習で美山 1 泊したところ、自分から美山に行きたいと言い出した。

子どものうちに実際に来てもらうというのは、関係人口を増やす取り組みとして可能性は大いにあると思う。

委員：

山村留学は人気がある。

委員：

小学生には人気。中学校になるとなかなか来ないが。

委員：

自分は都会の中学に通っていたが、荒れているのが当たり前だった。

以前、美山中学校に色んな働き方を学ぶ取り組みの講師として行ったことがあるが、生徒は下調べも沢山していたし、質問も深く考えないと出来ない質問をしてくれたので、少数精鋭ですごいという印象を持った。

委員：

実際、パブコメでも新聞報道がきっかけで出てきている。南丹市自体が新聞やテレビで取り上げられることが実際増えている。NHKや民放でも、「美山に行ってみた」という放送がある。そこで確固たるイメージを伝えられたら。現状では南丹市ではかやぶきの家に住まないといけなようなイメージを持たれかねない。

最近吹田市が、国立循環器病研究センター等があつて健都、健康都市で PR している。顕著に家が建ち子どもが増え、10 年前には考えられないくらい人がいる。健康で暮らせて、病院がすぐそばにあつて、公園も沢山あつてというイメージで来ている人がけっこういる。良いイメージを持ってもらえたら、それで来てもらえるように思う。

委員：

美山のことばかりフォーカスして申し訳ないが、山村留学にはどのあたりの子どもが来ているのか。

委員：

全国各地、東京や奄美大島からでも来ている。増えている。

委員：

先程の地域性の話だが、南丹市内でも園部・八木の子ども山村留学というのも有り得るのではないかと。そもそも 10 人というのが、地元の受入や行政の負担の問題があるような気もするが、どういう形で継続していくか。地域性の違いがあつてどうしても合併前の 4 町が固定化されている中で、本当に一体化していったら、「南丹市にはこんな所もある」という個性的な地域が集まって南丹市であるという

地域プライドを醸成する意味でも南丹市内で山村留学はどうか。続けるのであれば推奨してみてもいい。

委員：

美山小学校の児童が153人しかいないが、園部小学校なら学童保育だけでそのぐらい数がある。

園部小学校は人数が多い。その子供が来てくれたら良いと思う。中学校でも単独で体育祭が開催できない状況なので、八木中学校と合同でできれば。

委員：

地域を活かしながら、全体として一体感も。大事な課題である。

委員：

移住定住が大きいテーマだが、移住はともかく定住といった時に「流出防止」という観点も必要で、南丹市に住み続けたいという意識を、子どもの頃からある程度の醸成していく必要がある。南丹市全体を知ってもらふ事も必要。美山の子に園部のことも知らないとけない。

自分の経験で申し訳ないが、私は分校の出身で、複式学級だった。少人数ばかりでは社会性の問題・課題があるので、週1回交流学习ということで本校に行く。負担は大きいだろうが、遠足等は逆に本校が分校に来たりするというような形で、まち全体で知るように取り組みができれば。

委員：

移住定住の話で言うと、今、移住の方向への施策が沢山ある一方で、定住をしようと思っている若者の場合は特に何もなくて、サポートがないというのは課題だと思う。

私は大学で市外に出ていたが、住民票は南丹市にあったので、1ターンでもUターンでもないという立場。帰ってきた時にサポートがないので、住み続けたいと思っていて戻ってくるにあたり、何かしらの思いがなければ留められない。そういったサポートがない状態では、自分が戻る必要がないのかと思ってしまう。難しいとは思いますが、戻りたいという子ども達にサポートがあれば。

委員：

自分の意見として書いた。新たに来てくれた人、委員も事実上そういう感じだが、若い世代に地元のことを知ってもらいながら活躍してもらう場は是非必要だと思う。

例えば、舞鶴市の方で「政策づくり塾」という取り組みをやっていて、北海道から来た塾生がいて、本人は望んで来たけれども奥さんは連れて来られたという感じで、暑い、寒い、暖房が十分でない、もう嫌、帰りたいと言われて悩んでいる話を聞いた。暮らしの相談会等、よくある悩みも聞いてくれる定住後の受け皿があればいいなと。

委員：

メンタルサポートも1つの策、住宅を建てるにしても制度対象外になるので、在住者への経済的なサポートも必要かと。

委員：

リフォーム枠のようなものがあれば。

委員：

実質移住者が、外に学びに出ても安心して帰って来れる、阻害感がなく損にならないような環境づくり。

委員：

すぐ出来るかどうかはともかく1つの事例として言うと、就業支援をやっている京都ジョブパークの事例。正直、人材流出で言うと北部は比較にならない程深刻。大学ほぼない状態。みんな出てしまう。繋ぎとめようとする、帰ってきてもらう手段として、砂漠に水を撒いた程度ではあるが、府立高校には全員卒業式の日に北京都ジョブパークの利用者登録の用紙を配り、登録された方には月1回以下であるが、地元の企業情報等を送る取り組みをしている。北部ではよく子どもの親が「帰ってこなくていい」とおっしゃる。どうせ働く所がないから、と。園部・八木あたりなら京都市内まで十分通えるので状況が違うとは思いますが、北部ではそういう取り組みで在学する人に帰ってきてもらう努力をしている。

委員のおっしゃった移住後の定住。移住定住だけではなく、前回の話でも起業された方のフォロー、スタートアップも大事ではあるが、その後のフォローが重要という問題提起があった。就業支援にしても同様で、就職したが直ぐ辞める人が非常に多いということで、その後の定着支援が重要だという考え方になってきている。確かに、「どこまで」「いつまで」という線引きは難しい。いつまで移住者扱いするのか、というのは難しいところだが、一定移住者のフォローアップのことは考えた方がよい。スタートアップの支援はどこのまちも取り組んでいるので、そこで差別化、より深度のある取り組みをしようとしたら、定着後の部分になってくるのかなと。

委員：

資料②の1行目「行きたいまちづくりじゃなくて住みたいまちづくり」は好きな言葉である。訪れたいまちから交流したいまちに進化して、住みたいまちというのが終着点だと思う。色々な資料を拝見して、南丹市に住み続けたいというのが6割。八木町の方は5割くらいの方が商店街で買い物をしない。

まちの比較サイトがあって、各都道府県どっちがいいかと比較出来るのだが、南丹市は結構勝っている。亀岡や京都よりも高い。ただ、圧倒的に負けているのが、店が無いということ。そこが課題だと思う。

移住定住というのはもの凄いテーマだと思うのだが、前も言ったように、移住したくても家が無い。八木は圧倒的にそうである。八木町で1番期待していた西口の再開発地が販売の広告を出されたが保留地があと残り3区画と聞いており、残り全部仮換地になってしまっている。大失敗な売り方だと思う。地権者にとってバラバラの値段になってしまうので。亀岡市千代川町は1番売りにくい所から業者向けの第1期分譲は終わって、第2期が1月に契約開始で2月に決済、第3期が千代川駅に一番近い部分を残し、しっかりと区画割りして値段が決まっている。だから業者が手を出せるけれども、八木は残る開発地域が既に仮換地となっており区画割りがまだ見えておらず業者に聞いても手を出せないと言っている。値段がどうかもわからない、価格がどうなるかも分からない、ここ住宅地としていいなと思っても横にドカンと店がきたらどうしようもない。そのあたりのやり方が失敗している気がする。不動産屋が魅力を感じていない。綺麗に図面が引かれていないので指をくわえて見ているだけだと。ハウスメーカーや地元不動産業者は千代川の土地を買いに走っている。第一期の販売は失敗していると思う。

委員：

一番都市に近い所での課題。注目しておかなければいけない。

委員：

皆さん非常に様々なご意見を活発にいただいて議論が深まったのだが、事務局から具体的に計画案に落とし込んでいるものを説明していただいて、より良く出来る所があればご意見を伺いたい。

## 議事その2： 第2期戦略中間案について

(事務局から説明)

### ■ 中間案について説明

- ・頻回にバージョンアップすると混乱を招くので、パブコメを実施した状態(ver.2)から更新していない
- ・次回会議には今回のご意見を反映して最終案を提示する

委員：

一部数値を変える案というのは先程言っていた(②-2の反映)。第2期の中間案を前の方から見ていただきながら、最終チェックに近い形で確認してくのが今日の残りの時間でやるべきこと。

まず基本目標に入るまでの「策定趣旨」から「評価・検証」までを見ていただいて何かあれば。この部分については「そんなに変わらない」というご意見もあるかも知れないが。

私が他の自治体で見聞してきたことと言えば、例えば今年はSDGsがとても話題になって、バッジをされている委員もいる。その時勢も踏まえて戦略にもSDGsを関連付けて載せる自治体もある。なぜかと言うと、国が別途SDGs先進都市とか、そういう場所を作ってモデル都市を募集して交付金を出したりしてくれる。舞鶴市はその方法をとった。田舎をつくる力にと。他にもSDGsをやると書いてみたり、散りばめてみたり、基本戦略ごとに柔軟な基本目標のどれに関るとか書いたりしているまちもあるが、確たるプランや意見なしに書くと、若い世代の注目だけ高まるので気を付けていただきたい。

他に大枠のところでお気付きの点等あれば。

### ■ 戦略の評価検証

委員：

戦略の評価・検証については、毎年委員の皆様にお世話になって講評もしていた。もう少し市民の方を巻き込んだ伝え方の工夫・報告書を分かりやすくする・動画作成して見せる・説明会開催する等、リアルなご意見でも。

委員

「募集しています」くらいは市の公式 LINE に流しても良かったかも知れない。

委員：

評価そのものは変わらなくても、知らせ方・載せ方・見せ方を変える。例えば住民説明会等でやれば盛り上がり過ぎてしまうかも知れない。

委員

今更ながら、パブコメをやる時に過去自分はどうしていたか考えると、前の仕事では関係業界・団体に行く機会が多かったので、挨拶の中で必ず「パブコメやっています。見て下さい。意見下さい。」と

入れるようにしていた。講演等も頼まれたりしたので、その時は時間の内いくつかをその説明にあてるという形。直接説明すると炎上してしまうので、フィルターを挟んで広めてもらう形でしていた。検証についても PDCA で回していることについて知らなかったというご意見もあるので、少なくとも年1回ぐらいは委員会を開いてやると思うが、その結果についても何らかの形でお知らせする。

我々がした評価に対するパブコメがあっても、それは聞かざるをえない、聞くべき。なるべく広めていただきたい。

委員：

評価は年1回とか2回やるのだが、それは基本的には国からいただいた交付金の有効性の評価であって。やり終わったものについて国に対してきちんとしたと報告をしたいという主旨。情報が欠落している場合も多々ある。完全に終わった事業について、仕方がないという空気感のある中で評価していた。交付金評価をメインにしなが、戦略の全体的な進捗状況や今後やるべき事業についても議論するという位置付け。次の時には交付金評価も勿論だが、戦略自体が上手くいっているか、この地域でこんなこと出来ないか、移住者向けに何か充実出来ないか、次何が出来るのか、ということも関係者も関って話が出来たらと期待はしている。農業・移住者・高校等もう少しテーマを絞ってやったら良いかと。市で出来ることは限られているので、民間と協力しながら地域創生をやっていくものだと思う。何か一緒に考える会が持てたら良いなど。大学生も含めて何か一緒に関れたら面白いかなと思ってるところ。

#### ■基本目標1 しごとをつくり、そこで働くひとを増やす

委員：

アンケートでも一番関心が高かったところ。誘致企業で働くだけでなく、誘致企業もサテライトオフィスがある。企業に対して1期目の計画で成果を上げた販路開拓の支援も進めている。

KGIと企業誘致について何かご意見等あれば。

委員

パブコメにあったように、南丹市に来た人の見方として、「田舎暮らしの快適な空間」というイメージは持っていると思う。そこをもう少しはっきり出すなら、農業生産額というのもひとつの見方なのかも知れない。今流行の小農家族経営に適した地域です、というイメージを作って、定住を増やす。空き家もありますよとトータルで結びつけられないかと思う。山が多いので耕地面積も限られている。ただ単に増やすというのは難しい印象。「農地・産業含めて人が入ってくる空間がありますよ」という方が効果としては高い気がする。

委員

どこに入れるのがいいのか。今の話で言うと、基本目標2でもいい気もする。基本目標1(2)の方でもいい。全体的に今委員がおっしゃったターゲットの方に来て欲しいとは読みにくい。ここはとりあえず大きな田んぼとかでIoTを導入して無人ロボが行ったり来たりするのを目指すということなのか。

委員

IOTをしたい人もいるかも知れないが、小さい畑でも高く売れる野菜を作って確実に届けたい人も多いような気がする。オーガニックにこだわりたいとか。IOTも入れてもいいが、そうでない方面も一言入れてもいいのでは。

委員：

京都府でもIoTを取り入れようとしているものの、亀岡くらい広い所でも、どう使いこなしていくのかまだ未知数な所があるが、無関心でいることはできない時代になっている。中山間地域でどう利用するかは持て余しているが、手探りでやっていかないといけないと思う。実際ここで住みたいと思っている人が狙えるのが、都市に近い所で小農展開して生産物を道の駅に置いて生活を成り立たせることができないか、ということ。

委員：

基本目標1(2)「地域産業の担い手となるひとづくりと市内就職・起業支援」の〈想定される主な事業・取り組み〉に「農業や林業の担い手育成・支援」とあるが、これでは抽象的過ぎるので、これを2本ぐらい分離して、大きな農業の後継者的な取り組みと、今言っていた小農・オーガニックにこだわって起業する人の支援に分けるのが、具体的な案かなと思う。

委員：

それなら(2)の方はKPIに「新規就農者数」を入れるのが良いのか。

限られた耕地面積の中で農業産出額どう上げるかというのは難しい課題。IoTを活用した自動運転なり、京都府の実証実験も亀岡でやっているが、水田でやろうと思ったら本当に大規模でないと費用対効果を考えたら無理だと思う。他の地域であれば、ビニールハウスの温度管理であったり、水管理であったりということにIoTを活用している所もある。今ある限られた耕地面積でのままで産出額を上げようと思ったら、例えば、水田から高価値で売れる野菜に転換していくとかそういった方策はあると思う。IoTだけでいったらこの地域、美山でないと無理、としかならない。農業に関しては何かもう1つ、農業産出額というKPIに対応した取り組みが何かあると思う。

委員：

多分、この地域の農業、今集団で取り組んでいる事業組合等されている方は70代、75歳くらいの方が中心。あと5年もすればその方達は多分、引退なのかなというところで、次の世代がどうするかという課題をIoTによる地域の省略化で解決できれば。田んぼの水張り・見回りを簡略化、これまで5人でしていたものを1人で済むような形の取り組みが出来たらと思う。

委員：

そこに次の世代も入ってくる。

委員：

新規就農者数の話があって、私もそろそろその世代に入ってくるのかなと。仕事を引退したら。

委員：

賛成だが、70代後半の人が5人でしていたところに1番若い人が1人残っても、この人の次がいなないといけないと思ったのと、そういうタイプの農業の方に入って行きたいという人と自分で小農をしたいという人もいたと思った。それぞれのルートみたいなものを分かりやすく支援できるような策を作りたい。担当課も含めて今から言われて出来るかどうか分からないが、私達の意見としては、農業をもう少し充実させて欲しい、詳しくしていただけたらということ。KPIもそれに対応したものが欲しい。

KPIも詳しくなってきた良かったと思うが、ところどころまだ対応していないのがあるような気がする。それは何故なのか。多すぎるとダメという方針をお持ちなのか。

例えば(2)「観光による地域の雇用促進」は取り組みではあるけれども、それに対応するKPIがない。どういう考え方からこうなったのか伺いたい。

事務局：

作り方として、本来は想定される取り組みを踏まえてKPIの設定が必要になってくると思うが、そもそもKPIとして拾える指標にどんなものがあるかという探し方をしたので、どうしても抜けている部分が多くなっている現状はある。

前回、中間案を初めてご提示した時も「悩んでいます」とお伝えしたが、確実に毎年・定量的に押さえていけるような数値指標が、本当に市単位では難しいということ気付かされ、＜想定される主な事業・取り組み＞には欲張って色々書きはしているが、そこにKPIが追いついていないということはご指摘の通りである。

委員：

なるほど。例えば観光による地域の雇用促進などは市レベルではなかなか把握しにくい数字だと。しつこく迫っている訳ではない。有害鳥獣も活用できる人材というのも、聞いていけば大体分かるのだからうけれども確たる根拠になりにくいから上げにくい。

委員：

多分、観光による地域の雇用促進に対応したKPIでいうと上にある「製造業従業者数」としてるところを「3次産業従業者数」まで包含すれば対応するのだと思う。製造業従業者数に限定かけているのは、これしか把握できないということかと。そのあたりが交付金との関係で押さえないといけないという無理ができる。仕組みの限界。突き詰めていったら先程のパブコメでおかしいと言われるのも分かる。国向けには出来ていますと言わざるを得ない一方で、客観的に見たときにそうは見えない、ジレンマというか、そこはよく分かるので悩ましいところ。

委員：

ありがとうございます。今のご説明を踏まえて、以降議論するには、それぞれの経験等から「これは把握できるのではないか」というような数値指標があれば教えていただき、ということで続けたい。目標数値についてもお気付きのことがあれば、ご意見をいただきたい。

もう1つ、この進捗状況を報告する時には、＜想定される主な事業・取り組み＞について結局、どんな事務事業やっている・やっていない・それでどんな成果が上がっているか、数字みたいなものなるべく具体的にお示しいただいたら、誰が見ても分かりやすい。「伝統産業の後継者育成」と書いてあって、大事だろうと思うが具体的に何をやっているか分からない、ではなくて、「セミナーを開いて〇人が来ている」とか。

## ■基本目標2 南丹市への新しい人の流れをつくる

委員：

第2期では「関係人口」という概念が出てきているということを再確認したい。国の方で言っている概念で、総務省等が解説サイトを作ったりしている。南丹に関心を持って関わってくる人、実際にやって

来る人、興味を持っている人、ふるさと納税やお取り寄せ、あたりが関係人口なのかなと思うが、何が関係人口なのか数えにくい曖昧な概念。住む人・来てくれる人・関心を持ってくれる人を増やすということ。

事務局にお尋ねするが、このKGIが全体的にどれも上向きになるというのは、どのような根拠か。

事務局：

基準値を2018年度時点と設定をして、第2期目標を書いている。この数値設定にあたり参照したのが第1期の期間中の伸びである。概ね順調に伸びているものについては約1.2倍という想定で数値設定、現実に難しいものについては若干調整をかけているものもあり、%の目標設定しているものは一律で+5%で設定している。その結果、庁内意見募集の際に担当課から事業の性質的に達成不可という指摘のあったものについては若干修正をしている。

委員：

観光関係についてお尋ねする。南丹の観光・宿泊施設はピーク時満室か。ピーク時は満室で、他の季節にも来てもらって増やそうとしているのか、それともまだまだ余地がある話なのか。

事務局：

そこは把握していない。

委員：

どういうビジョン・戦略で増やそうとしているのか知っておきたかった。

委員：

サイクルロードレース等のイベント時は足りないぐらいだが、閑散期もあり、年間トータルでみると1日500人くらい泊まれる。ただ、部屋が昔の造りで大部屋が多いため、部屋当たりの人数が上限にならないので実質はもっと少なくなる。

委員：

どの部屋も4～5人で泊まってくれればいいが、実際にはシングルや2人とか。

委員：

閑散期ではそういうこともある。

委員：

そこに増える余地はあると思う。例えば数年前では、閑散としていた保津川下りに外国人が来ることになって、冬場でも満席が続いている。外国人には季節が関係なくなっている。

今更ではあるが、前回発言したように、次の創生戦略で「関係人口」や「連携」がポイントになる。その視点で言うと、戦略の位置づけの所で「京都府・近隣市町との連携」と入れているが、特に(2)の観光のところの〈想定される主な事業・取り組み〉の中に、例えば「森の京都DMO・京都府観光連盟・関西観光本部等との連携」というのを入れておくと交付金の獲得可能性が高まる。

委員：

(1)(2)各施策の記載が簡略化されて短い印象を受ける。具体的にここで出来たらと思うのが、(2)。「想定される主な事業・取り組み」は非常に意欲的に色々あるのに、それを考えたベースにある考え方がこの4行に言い尽くせているのか分からない。オリンピック・ワールドマスターズゲームズ等直近に開催されるものが大きく載りすぎている気もする。どういったファンをどのように増やすということが少し聞きたかった。

外国人に興味を持ってもらって増やしたいというのは明確に書いていると思う。ご意見いただいたように、外国人はシーズンに関係ないところがあるから、日本人が来てない時期に南丹に足を運んでもらったらいいかと。その為には外国人にアピールするような何かあればと思う。

小・中・高の修学旅行に京北にこさすとか同志社大の学生が発表していたので、「京北だけでなく南丹も美山がすぐなのでよろしく」と話をしていたところ。日本中に田舎は沢山あるが、京北ならではの・美山ならではの・日吉ならではの、という京都のすぐそばならではの文化が体験できる特色がないと。関東の田舎と同じ体験を提供しても効果は薄い。もう少しこの地域ならではの文化等を掘り起こして提供しないといけない。

同じように、外国人向けに訴求するようなコンテンツを掘り起こせたら、喜んで来られるのかと思う。例えば、待体験が出来る、農村の周りを映画の格好で走れる、というような。

委員：

観光の仕事長いことして思っていたのは、田舎の体験そのものは正直どこもほぼ変わらない。美山のかやぶきみたいに独特のものがあればいい。そうでない地域はどこ行っても一緒。ただ違うのは世界的な観光都市である京都に近いということ。現に9月にラグビーワールドカップで応援に来た人達が京丹波で黒豆摘み体験をした。なぜかという京都観光に来るから。日本に来たからには、ただ古都京都の観光だけではおもしろくない、+α何かをしたい、そのときはたまたま農業関係の人達だったので、京都で観光したついでに農業体験がしたいということで京丹波になった。そういう可能性はある。黒豆は時期的に特産品があつて良かったのだが、そうでなくても、京都へ来て、修学旅行の話と一緒に+α何か出来ることや出来る場所があれば。田舎の部分を取り取っても一緒だが、地勢的にみたら強みはある。だから連携というのがすごく大事になる。

委員：

なるほど。それは是非。

委員：

ちなみにニュージーランドからの一行にはバレット3兄弟のお父さんがいた。影響力があるので、それでニュージーランドにそれが広がる。接点を作ることによって広がっていくということ。

委員：

美山町もデンマークと交流している。よく来ている。

委員：

農業で京都ブランドなら、産地に来てもらって体験して食べる・作る・お世話するというのも可能かも知れない。

委員：

そこも強みである。京都で京料理の食材がどこから来ている、というところから繋がりが出来る。

委員：

氷室の郷は元々そういうことで作られたのだと聞いている。あまり活用されているようには見えないが。

委員：

ブランドもずっと関わっている。10年ぐらい前は「南丹ブランド」を作ることになっていたが、だんだんブランド化がなってきたのかなと。野菜等、産地で売れるとか。

委員：

自転車で工房を巡って創作現場を見てもらうという取り組みを、知り合いの工房何軒かと外国人を入れてやっている。少しずつ海外の方の反応も出てきて、4月はフランスを中心に十数件入りそうなので面白くなって行きそうだと思っている。そうやって増えると、今までどこに売っていかうかと悩んでいた作家も、体験出来る商品やお土産になりそうなものを作ってみようかと言っている。どんな数値にするとかは分からないが、地域伝統産業の後継者育成・金融機関による促進等、ポテンシャルはあると思う。

委員：

農家民宿が増えると思うと、農家業は減っていく指標。先日森の京都の人が言っていたが、台湾人の修学旅行は農繁期を過ぎた時期(11月頃)・修学旅行的な内容であれば受け入れやすい。ただ、体験させるのは難しい。京都の田舎ということで見てもらうには面白い。京都・大阪の街中に行ったらうで田舎に、というもあり。夏は農繁期なので厳しい。

委員：

格安プランで来る外国人のイメージになるが、いつそ1ヵ月くらい住んでもらって、1ヵ月働いたら2週間くらいタダで泊めてあげるとかはどうか。

確かに素人がお世話するというのは、農業をきちんとしながらでは難しいと思う。

委員：

農業のウーファーの世界的サイトとかもあるようなので、そこに夏の農繁期は人材募集している等掲載しては。

委員：

そういうのを利用している農家もいる。

委員：

先程の私の案は労働問題的にNGなのだろうか。その間に観光も行ける。

委員：

農業の種類にもよると思う。和束町はワークキャンプという形でやっている。1ヵ月くらい受け入れて草引きや肥料やりを手伝うと、当然摘みたくなる。その時期にまた来る、最終的にはそれがきっかけ

で移住している、という人が何人もいる。

そういう仕組みは、素人にできるものとそうでないものがあるので、簡単に言えることではないとは思いますが、やり方はあるかも知れない。

委員：

その取り組みを和東と森の京都・海の京都でローテーションしたら通年いけるという話を以前していた。それぞれ閑散期が違うので。一方で働く人はずっと働きたいので、それを地域で受け入れていけば好きな所に住みつけるので全体では移住者が増える、という仕組みが出来たらいいなと。

委員：

ブランド化の話だが、地域の細々したブランドある中で、京野菜というブランド力は大きい。亀岡の大納言がブランド化していったように、そういうものを育てていく必要があるように思う。牛肉でも近江牛・神戸牛がある一方で京都のブランドはなかなか育ちにくく、京都牛・亀岡牛はまだメジャーでない。強いブランドに引っ張ってもらってPRの仕方をして、京都のブランドも伸びていくのかと思う。

委員：

京都牛、生産力の課題もある。ブランドで言うと観光も一緒だが、訴求力である。「京野菜」と言えば東京でも通用するが、「南丹野菜」と言うと「どこですそれ」となる。例えばお茶。宇治茶というブランドが元々あり、その中に和東茶。大きなブランドがあって、「その中でもウチは…」というアピールができる。京野菜ブランドに乗っかって、もう少し狭い範囲で頑張るのかなと。ただ量的に、他府県産京野菜に負けているところがあるので。その課題はある。

委員：

KPI(2)で数値設定の考え方は分かったが、目標にはしにくい指標ではあるが「TVに取り上げられた件数」や「ネットで南丹市を検索してヒットする数」等、もう少し取り組みに直結したものは難しいか。

委員：

グーグルなら数値を把握できるのでは。

多分ネットで検索して来る方が多いと思う。市のHPを見ずに検索エンジンで調べて行く方も多と思う。

委員：

「市のHPのアクセス数」は分かるのであってもいいと思う。ファンが市のHP見るかなと。

委員：

閲覧者の大部分が市民。その中でページビューを特定して把握する手段があるのか。南丹市のHPの観光ページを見るかという、そうでない可能性がある、どう集計するのかなと。経験上、大きな課題。それでKPIとしては市HPとしていると理解している。

委員：

ふるさと納税の寄付者というのは分かりやすくよい。

委員：

これは明確である。

委員：

KPIの並び順には何か意味があるのか。

事務局：

現状で言うと、そこはまだ整理できていない。

委員：

まだ過程ということか。2番目が農家民宿宿泊者数。増えたらいいと思うが、順番には違和感があった。

#### ■基本目標3 結婚・妊娠・出産・子育ての希望を叶える

委員：

(2)のKPIが少ないかなと思う。なかなか数値が取りにくいことと、アウトプット・アウトカムで言うと、アウトプットが多い。婚活イベント話題に出たが、そういう指標は置きにくい。

事務局：

婚活は中間案の ver.1(前回資料)の時点では成立数を置いていたが、各委員からご意見いただき除外したところ。

委員

結論としての婚姻数ということか。

委員

婚活支援をやるのであれば、成立数は確かに難しいが、そこはある意味アウトプットでもいいのでは。参加者数等。

委員：

今年度、地域振興課でしている事業で今年も採択をいただいて、私の研究室で南丹市の婚活事業の評価をやる予定。それやり終わったら、この話も詳しくなるのかなと思うが。今は市がするのと民間がやる婚活の、どちらが望ましいかも分からない。婚活事業・女性の就職活動支援についてご意見があれば。

委員：

企業との取り組みが無いように思う。＜想定される主な事業・取り組み＞に「女性の就職・活動支援」があるが、後の定着の観点で言うと、子育てしながら働き続けられる環境が必要なので。企業の働き方改革。そこが何か出来ることがあるのでは。市内の事業所、例えば子育て休暇の充実している企業ならおそらく求人につながる。「求人出したのに来ない」とよく仰るが、そういう取り組みから子育て中の就職希望の方々の応募につながると思う。南丹市の問題だけでない。要は子育てしやすい

＝働きやすいであり、働きやすい企業は子育てしやすい企業であるということ。地域も同じだと思う。そのあたりの取り組みがよく見たらないので、何か入れてもらいたいと思う。京都府も一緒にやるので、成果に繋がる可能性がある。京都府が失敗したら一緒に転ぶことにはなるが。

委員：

当方の場合は、産休・育休制度はとても充実している。女子大生の評価が高く、沢山面接に来てくれる。最近、職場の若い職員に子どもが出来たのだが、人事部から旦那の方に育休取れと電話が入ってくるぐらい。本人は「恥ずかしくて取れない」と言っているが、取れるなら取ってもいいよと言っているところ。男性も育休を取る時代になっている。先程、働き方改革という言葉が出たが、うちのトップが全職員とミーティングしながら意見を吸い上げている。先日週休3日制にして欲しいという職員が出てきたと聞いている。その次の日に、日興証券が週休3日と4日を許容したような記事が出て驚いた。少し気を抜いているだけで時代がどんどん進んで行くので、進化できるのであればした方がいい。

委員：

婚活イベント開くよりは働き続けたい・働きやすい環境づくりの方が重要。お金に余裕があったら婚活イベントでなくても機会は作れる。

委員：

両方出来たらやりたいと思う。パブコメでもあったが、後になってあの時やっておいたらよかったと後悔する人もいる。自己選択でしないという人がいてもそれはいいと思う。それでも生きて行けるようにするのもこの基本目標で、選択肢があったらいいと思う。就業支援も婚活支援も、京都市内なら働きに出られるのと同じ理屈で、京都市内に婚活支援センターもあるし、そこどう連携しながら機能分担してやっていくのか、ここでは欲しいところ。その意味では＜想定される主な事業・取り組み＞での書き方がすごくシンプルで、「婚活事業」と一言ではなく、どういう婚活事業・役割分担をするのか、もう少し書きぶりで見えてもいい。

委員：

リード文のところでは結婚・出産を機に離職する女性が再び活躍できる、この姿勢は当然大事。ただ、その前に結婚・出産しても働き続けられる環境を作るという内容が必要ではないか。

委員：

委員が仰ったように、金融機関は女性勤務率が非常に高く、重要な役割を果たしておられるので、働き続けて欲しい。産休・育休が非常に充実していて、そのあと時短勤務などもあり、埋めるのに人が必要。そこに離職された方が活躍する場ができる、という循環。

委員：

私達が入社した頃は、女性は結婚したら大抵退職した。それが今、大きく変わってきている。産休や育休制度が充実しほとんど辞めることはない。

委員：

昔は祖父母がいた。今は核家族だから、職場を続けられないけれど、私たちは両親と一緒に住んでいたから、ずっと働き続けられた。家庭環境も変わってきている。京都府女性の船の南丹支部長を

しているが、京都市男女共同参画センターの事務局されている方も先日産休取得されたと聞いた。男性が産休取得されたり、今は男女平等という感じで男性も家庭の中の仕事をしていくということが当たり前になってきている。

委員：

南丹市は、先程の園部・八木あたりと美山・日吉、全然地域性が違いますという話の延長で、農村部は3世代同居が多い。それは子育て環境に良いと思う。そういう強みを活かす取り組みもあるかも知れない。私も妻の両親が近くに居たので共働きを続けられたし、子どもも3人いるが夫婦2人だけだったら3人も育てられなかった。そういった3世代同居がある地域というのは強みなので、活かすことが出来たらと思う。ここに書くかどうかは別として。

委員：

職場で産休が終わり、働き始めた頃に保育所から「今日、熱出しました」と電話がかかってくる。休みやすい環境を作ってあげないといけないと思う。近くに両親が居たら助けてもらえるが。

委員：

状況を知る、啓発ではないが、こういうものだと知らない。委員のところは3世代同居で上手く回ったかも知れないが、逆に同居していることで「辞めろ」と言われる場合もあるかも知れない。今の時代、辞めないものだという情報をインプットするような取り組みもいるのかなと思う。男性が育休取得するのも恥ずかしくないような環境づくり等。

委員：

一見大したことないのだが、今、企業向けに働きかけているのが1時間単位の有給休暇の取得制度の導入。半日単位や1日単位が多い。急に子どもの都合で休まざるを得なくなったら、これが重なると欠勤で給料が減らされる。それを1時間単位で取得できるようにしましょう、ということを企業に働きかけしている。能力の問題もあるが、南丹市内の企業でそういう取り組みが進んでいけば、「南丹市は子育てにやさしい地域なんだな」となる。南丹市の企業に就職しよう、地元の子も他に行かないで南丹市で就職しよう、という流れができるだろうから、子育て支援の施策では企業支援あるいは企業への働きかけは重要。

委員：

なるほど。対応出来るか分からないが事務局に伝えたいのが、基本目標3について施策(1)の方はKPIが豊富だが事業・取り組みについては非常にシンプル、施策(2)の方はKPIがないけれども事業・取り組みについては攻めている感じがする。一言多いというか。「手厚い医療費助成」とか「教育環境を豊かにする学校設備や施設の整備」と書かれているが、(1)の方では「保育所・幼稚園設備・備品の充実」と、トーンが違うのでもう少し合わせられないか。合わせなくてもいいのか、各担当が伸び伸びとやっていただければいいような気がする。なぜこんなに違うのかなという印象は持ってしまう。下は思いが出ているが上はシンプル過ぎて何するのか見えにく過ぎる。「学校設備や施設の整備」といえば、学校環境を豊かにするに決まっているから書かなくていいと言われるのかも知れないが。同じ基本目標の中で気になった。

中身の方は大丈夫か。新たなものも出てきているが。「発達段階に応じた情報活用能力の育成」「高校との連携」。第2期の国の総合戦略でも高校改革・活用みたいなことが多くなっている。大学生

が地域に入るのが第1期の柱だったのだが、それも続けながら、大学のない地域では高校活用。

■基本目標4 誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる

委員：

今年も災害が非常に多い年で、集中豪雨の脅威というのが切実に感じられる。強力な台風で山林の木が倒れる問題も出て、重要な関心もあろうかと思う。このKGI・KPI・想定される主な事業・取り組み、についてどうか。

防災が少し心配。担当はどういう認識なのか知りたい。防災と防犯が一緒でいいのか。集中豪雨・台風が来て、集落が孤立化するかもしれない、裏山が急に崩れるかもしれない等、きっと皆不安であろうと思う。「防犯と防災の体制を整える」というのはどんなことするのか、それで大丈夫なのか、という心配がある。担当部署から何か聞いていること等教えていただきたい。

事務局：

その部分で補足は特にない。

委員：

地元の店舗開店が出来ればいいと思う。地元の店舗が開いている所が増えれば、防犯にも繋がる。具体的に何の指標を置くべきかは分からないが。

委員：

KGIの3つ目「市民の地域活動参加率」というのはどういう意味か。何に参加したらこの数字に反映されるのか。消防等か。

事務局：

今回、資料1の別冊として添付している「市民意識調査」の設問6の結果である。  
基本目標4のKGIは全て市民意識調査の結果で出している。

委員：

それは分かっているが、活動の内容は。

委員：

アンケート作った側として、地域におけるさまざまな活動、市民の自主的な活動とはどんなものを想定しているのか。

委員：

「さまざまな活動」だから、かなり曖昧。

委員：

集落なら地元活動等だろうし、新興住宅地でも一斉ゴミ拾い等しているのでは。

委員：

何故質問したかという、この数値目標でいえば上がることを良いことと見做している。しかし移住してきた若者からは地域活動が多すぎて嫌だという話を多く聞く。この指標値が上がるのが良いことなのだろうかという疑問。

委員：

委員の仰る問題意識には賛成。とは言うものの、地域の濃度がある中で色々な協働作業がないと安心して暮らせないからこれが入っているということと理解している。確かに色々な見方があり、集落に移住してくる人と新興住宅地で家建てて入ってくる人がいて、正直関わりたくないから新興住宅地に行くという声も聞かなくはない。集落に入って、基本好きだから入っているけれど、そこまで動員・期待されても辛いやってられない、という声もあるのだろうとは思う。そういう声には一方で答えていけないといけないのかなど。集落の教科書等である程度分かって移住してくれているのではないかとは思いますが、ずっといけばしんどくなることもあるのだろう。

委員：

勿論、日役や、ずっと続いてきた地域の繋がりは大切しないといけないと思うが。人口が減って行く中で、行政から下りてくる様々な委員の仕事が増える方向になっているので、どうかと思う。

委員：

私の個人的な思いとしては、新しく来た住民(事実上の移住も含む)や若い人が、もう少し自発的にやりたいやっているような地域活動を増やせたら良いのではないかとは思っている。動員されてやらされているという意識で上げていく声は不平不満でしかない。

委員：

アンケートの結果なので、ここで地域活動＝自分自身が思う地域活動なので、定義が全く分からない中で、この項目として正しいのかと言うと、功罪を考えると無理にここに上げなくても良い気はしてきた。もっと安心という観点に絞ったら消防団とか具体的なものにできるのでは。

委員：

市民の地域活動参加率、行政の取り組み等に動員されて参加するという主旨ではないということをごここでしっかり話をしているということ。やりたいやするような地域活動を活発になって欲しいし、そういう応援を市としてもやって欲しいという趣旨。

事務局：

災害等が起こった時に自助・公助・共助という考え方がある。自助は自ら助ける、公助は市役所が行って災害救助等をする、そして共助として一緒にやっていかなければ、災害に対してなかなか対応出来ない部分もあるかと思う。共に助け合おうとしても、顔も知らない人を助けに行くというのは出来ない。そういう部分から考えると「地域活動」というのは市の行事もあろうかと思うが、地域の絆の深まりを図る手段として、ここに挙げている。

委員：

私は残すことには賛成というスタンス。今、事務局の仰ったことも大変賛成である。一方で、どの地域でもこの共助で実際動いてくれる人が偏っていて辛いというのも聞く。後継者が必要。40歳で頑張

った人が 50、60、70 歳になってもやり続けたいといけない状況になって辛すぎて出て行ってしまふ。後から人がやって来てもらえるような、共助が順番に回っていくような形を作らねば。誰かに頼った共助というのは駄目だと思う。

委員：

事務局が仰ったことをリード文に入れておけば、KGIが生きてくると思う。

委員：

ここでSDGsが唐突に出てくるが、この項目でだけ触れてもあまり生きてこないと思う。戦略の位置づけとか、早い段階で謳えば使える気もする。

地域リーダーの養成とかも同じ感じ。自分以外にもやってくれる人がいる、いつか代替わりもあるというゆとりを持たせない。それでも「あなたがやってくれないとしょうがない」という期待を背負って頑張ってくれる人もいるかも知れないが。幸い、移住者等計画全体で描いている絵の中ではだんだん回っていくはずなので、そこをもう少し見える方にした方が良い。

リード文が簡単だから難しい。増えるであろう外国人も含めて、安心な社会を作っていく。

委員

私は京都府災害時女性サポーター養成講座6期の卒業生である。南丹市では大規模災害はあまりないが、南丹市の中でネットワークを立ち上げたいと思い、危機管理室に電話したが、南丹市には他にサポーターがいない。亀岡に2人いて、私で南丹振興局管内では3人目。災害があった時に精神的・心理的支援があればいいと思う。

委員

基本目標の中に入ってくる部分。避難所のレベルアップというのも全国的に今年話題になった。もう少しプライバシーを保てるように、この項目で書くべきか、全国的に動き出したら一気に動くものなのかかわからないが、避難所のレベルアップには女性の視点を入れて。委員の仰ること、それも地域活動。避難所の問題等加えてみては。災害が起きないに越したことはないが、起きないにしても避難所は近代化されているのか。地域に沢山あって、それぞれの地域ごとに考えているとは思いますが。八木地域ではどうか。

委員：

避難所的な避難所ではなくて、小学校等である。

委員：

八木等ではもう少し全国的な体育館等を使用して快適な冷暖房があり、プライバシーが守られている、できればペットも連れていける等、そういう類の避難所ニーズがあるのでは。

委員：

そこは現実を知っているだけに難しく感じる。全ての施設に冷暖房入れられるかという財政的な問題もあり、厳しい。とは言え、その中でどう快適に過ごしてもらうか。委員が仰ったとおり、避難する住民の半分は女性で、いきなり避難誘導から始まって避難所での生活が始まるので、女性の視点は絶対に必要。戦略に書くかどうかは別として、まずは女性消防団員を増やす努力をする、その中で意

欲のある方にサポーターになってもらうとかいう手はあるかと。

委員：

赤ちゃん連れの避難者もいるのでは。

委員：

昨年避難訓練に参加したが、子ども連れは少ない。

委員：

授乳、オムツ替え、泣いたらうるさいと言われたら困る等の理由で避難しないことは常にある。

委員：

実際問題として、避難しない。水害等はそもそも避難率の問題があるが。例えば原子力事故が起きた際、そんな事は言っていない。赤ちゃん抱えて真っ先に抱えて逃げてもらわないといけない。そういった事を考えるとお子さんを連れて避難した時に何を用意しないといけないというのは男女共同参画社会とはいえ、男性は分かりにくい。そこは当事者である女性のご意見聞くことが必要になる。共助の観点も含めて一定女性に参加していただく手法は考えなくてはならない。

委員：

ひととおり活発にご意見をいただいた。事務局でお困りのところや、作業するにあたりご希望があれば伺いたい。戦略に落とし込もうとすると、関係部署のお考えもあるだろうから難しいとは思う。

事務局：

今、ご意見いただく中では、リード文がシンプル過ぎるというご意見に強く反省している。＜想定される主な事業・取り組み＞の部分をご意見をいただく中で膨らみやすいので、どうしてもそれを総括するリード文が不足になるのは仕方ないところ。可能な限り肉付けしたいと思う。

委員：

＜想定される主な事業・取り組み＞に係る様々なご意見も皆様からいただいているので、それを是非、各担当部署にもお伝え願いたい。そうでないと今後発生することは、せっかくここで言っていたのに、来年度それぞれの担当課の思いだけで進められたら、1年目の事業が終わった状態でまたすれ違いになる。どこまで取り入れていただけるかは分からないが、留意すべき点・新しい着眼点もいただいているので、お伝えしてご検討いただきたい。

その他、全体を通じて言い残したとか、この辺を忘れていたとかご意見はないか。

10 ページの基本目標3「結婚・妊娠・出産・子育ての希望を叶える」の施策(1)の＜想定される主な事業・取り組み＞の4行目に「訪問事業・拠点事業による相談支援・孤立防止」とあるが、どういうものか。出産・子育てに悩んでいる母親へのサービスということか。

事務局：

そうである。シンプルに書きすぎているかも知れないが、子育てに関する訪問(保健師の赤ちゃん訪問)等のサービスを想定している。

委員：

拠点と言うのは、子育て支援センターみたいなものを意味しているのか。

事務局：

そうである。支援センターと子育て広場を想定している。

委員：

施策(2)「子ども達が地域に愛着を持てる教育や取り組みの推進」には「大学との連携」だけなのだが、地域の事業所等との連携とかもあつたら分かりやすいと思う。先日商工会の集まりで話していたことで、地元企業に企業体験に行くような取り組みが、園部では割とできているが八木ではできていなくてどうしているのか、という話題があつた。ある子どもが行ってみたいジャンルの事業者が地元あつて良い体験ができた、という話を聞いた。そういう経験が将来に繋がると良い。

委員：

舞鶴市でも「政策づくり塾」というところで、舞鶴にある様々な職業を1日で体験出来るようなイベントをやっていた。青年会議所が3年続けてやってますまずの人気。そういうこともここで出来たら。先程の子どもが将来戻ってきて南丹市内で働く可能性を感じられる。できるなら企業にもご協力をいただいて。大学・高校・企業連携のような解釈で。

委員：

それは<想定される主な事業・取り組み>の下から2つ目のことでは。

事務局：

これは誤植である。

委員：

誤植なのか。子どもにベンチャーを勧めるかと思って意欲的だと感心していたのだが。

委員：

亀岡は別院中学校に起業の話をしに行ったことがあるが、凄く熱心に取り組んでいた。子ども達も働きに行くのではなくて自分で何かしてみようとか中学時から考えている。そういう道もあるからこそその「起業」なのかなと考えていた。

委員：

両方あつたら良いと思う。

委員：

パブコメでもあつたことで、私もずっと主張してきたことだが、1委員として言いたいこととして、先端教育を受けられるような機関・支援があれば。要するに南丹市に住みながら京都・大阪の塾や私立学校に通学できる交通手段がある等。親が迎えに行ったら良いことかも知れないが。それなりに予備校・塾・私立に通う選択肢もあれば、安心して引っ越してくるという人もいる。夫は農業に燃えたいけれど、他の家族は不満・不安、のような時も。京都・大阪も通いやすくなっているから、勉強したら京

大にも行けるとか言ったら、「そしたら引っ越してみよう」という人も増える。どういう表現していいのいか、具体的支援についても分からないが。先端教育に大丈夫という安心感を持たせたら移住者は増えると思った。

ではこの中間案について、またそれ以前に市民の皆様からの市民意識調査やパブリックコメントということに触れて、今回も非常に活発な議論をいただいて大変、ありがたいと思う。

地域が変わらないように見えて、だんだん南丹市にも色々な新しい動き・思いも出てきているところの反映であろうと思う。どの地域でも同じように創生戦略を作るとは言え、色んな違いがあるなど改めて思った次第。この地域創生戦略だけで地域が変わったりするわけではないが、大事な戦略である。引き続きご協力いただいて、より良い戦略にしていきたいと思うところ。

大変、充実した審議をありがとうございます。では、事務局にお返しする。

### **3. その他**

・事務局からの連絡事項

前回議事録の確認・公開について

・次回日程調整

令和2年2月 21 日(金)9:30～12:00 予定

### **4. 閉会**

■座長挨拶

新しいメンバーでの有識者会議を毎回楽しみにしており、今回も有意義な議論をありがとうございました。クリスマス・お正月を控えお忙しい時期にお集まりいただき、ありがとうございます。

これもちまして第3回南丹市地域創生会議を終了いたします。皆様、ありがとうございました。